近年、人間の最小集団である〝家族〟が各方面で問い直されている。なんでもない日常…どこにでもある家族風景をベースに斬新なスタイルと特異なニュアンスによって、どこにもなかった映画が誕生した。これは〝映画〟でしか見ることのできない、スーパーホームドラマ〟である。受験戦争、家庭内暴力…そんな危機感を背景にしながら、建前と本音のフワフワした部分でリアルに展開される家族のコミュニケーション。どこか奇妙な近未来的家庭風景の中でサイエンスなゲームを楽しむ子供達と家庭教師。画像の新しさ。会話のユニークさ。そして何より森田の才気に貫かれた緊張感は、一秒たりともスクリーンから目を離すスキを与えない。この映画には、あらゆる方向性を持つベクトルと様々なしかけが潜んでいる。そこで私たちは、自らの何かに気づき、思い当たることを余儀なくされるだろう。

眉間にシワをよせて深刻ぶるのは似合わない。けれど、笑いすごしてしまうには、ちょっと不気味な映画である。

製作には「遠雷」のにっかつ撮影所、ニュー・センチュリー・プロデューサーズ、ATGの三社が提携。第五回すばる文学賞を受賞した本間洋平の同名小説の映画化である。

脚本・監督は、「の・ようなもの」で劇場用映画にデビュー後、ジャンルを問わず精力的に話題作を発表し続ける森田芳光。「五本目のこの作品を世界的監督になるステップにしたい」と宣言。真に言葉通りの作品を作り上げた。独自のタッチに一層の磨きをかけ、更に新しい切り口を提示している。あらためてその広く豊かな才能に驚嘆せざるをえない。

家庭教師、吉本役で一年半ぶりの映画出演をしている松田優作は、「今までの作品は森田の滑走路、〝家族ゲーム〟で完全に飛び立った」と大絶賛、初の役どころに意欲的に取り組んでいる。弟・茂之には宮川一朗太、兄・慎一に辻田順一、そして茂之の友達、土屋役に土井浩一郎、いずれも全国三〇〇〇名の中から選ばれた新人が、監督の期待に十二分に応えている。父親には、伊丹十三。母親には、映画初出演の由紀さおり、という異色の顔合せ。また兄弟の友達として登場するオーディションで選ばれた十数名の中、高生が、実に生き生きと魅力的だ。

■キャスト

吉本　勝：松田優作

○

沼田孝助：伊丹十三
沼田千賀子：由紀さおり

○

沼田茂之：宮川一朗太
沼田慎一：辻田順一

○

茂之の担任(英語教師)：松金よね子
美栄子の姉：岡本かおり
近所の奥さん：戸川　純
美栄子の母：白川和子
慎一の担任(英語教師)：鶴田　忍
茂之の担任(国語教師)：伊藤克信
茂之の担任(体育教師)：加藤善博

○

土屋　裕：土井浩一郎
三井　順：植村拓也
田上由利子：前川麻子
樹村雅美：渡辺知美
浜本道子：松野真由子
菊地保子：中森いづみ
山下美栄子：佐藤真弓
芝田友幸：小川隆宏
その他：劇団東俳

○

若い先生：清水健太郎

○

吉本の恋人：阿木燿子

■スタッフ

製作：佐々木志郎/岡田　裕/佐々木史朗
企画：多賀祥介/山田耕大
原作：本間洋平
　(すばる文学賞受賞作品・集英社刊)
脚本・監督：森田芳光
製作補：桜井潤一
撮影：前田米造
照明：矢部一男
録音：小野寺修
美術：中澤克巳
編集：川島章正
助監督：金子修介
記録：森永恭子
製作担当：藤田義則
製作進行：宮内真吾
監督助手：酒井直人/明石知幸
撮影助手：福沢正典/山下弘之/猪本雅三
照明助手：西本充利/遠藤光弘
　鈴木敏広/椎原教貴
録音助手：北村峰晴/林　大輔
効果：斉藤昌利
編集助手：北沢良雄/藤山伊世子
装飾：山崎　輝/八木雅彦
　小林聖樹/歌田昌昭
衣裳：越智雅之
結髪：榊原あけみ
特機：城田幸夫
スチール：竹内健二
現像：東洋現像所
協力：トヨタ自動車株式会社
　東京都観光汽船株式会社
　社団法人日本空手協会
　株式会社丸増
衣裳協力：キャラバン/グリーンメイト
　東海堂

カラー・スタンダードサイズ
1時間46分
にっかつ撮影所＋
ニュー・センチュリー・プロデューサーズ＋
日本アート・シアター・ギルド　提携作品

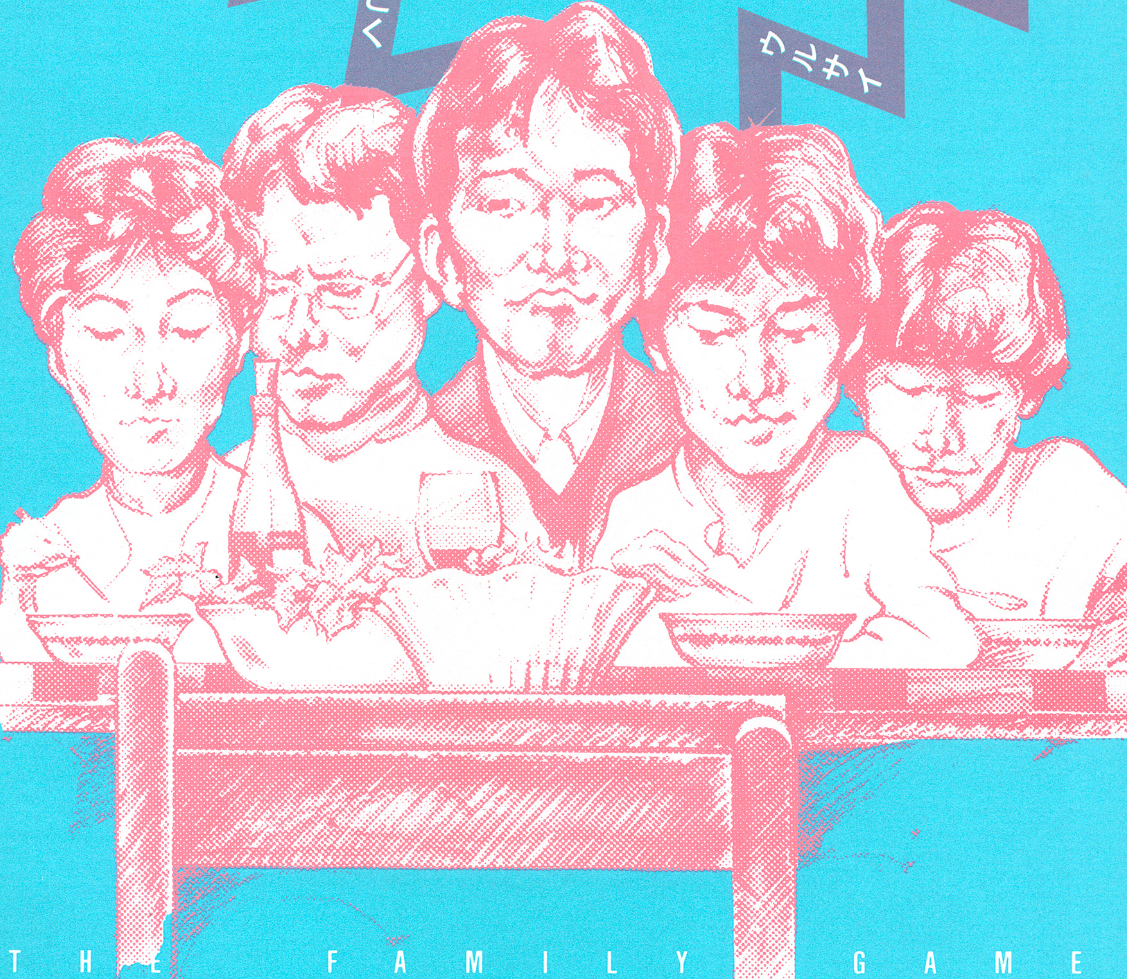
atg

アートシアター

11

森田芳光監督作品

家中が ピリピリ 鳴ってて すごく ウルサイ んだ



THE FAMILY GAME

家族ゲーム

あらすじ

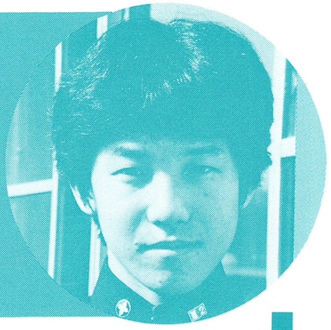
僕（茂之）の受験という話題をめぐって家中がピリピリ鳴っててすごくうるさいんだ。

兄の慎一は、優秀な成績で一流校の西武高校に入学し、両親に喜ばれている。父（孝助）は、会社から帰るとワインを飲んで母（千賀子）にからむのが日課だ。母は、僕たちのことを生きがいにしているふうである。

ある日、一見平穏な僕らの家庭に吉本という家庭教師が進出してきた。吉本は三流大学の学生で、ちょっとホモっぽかったりする風変わりな男だ。父は吉本に〝茂之の成績が上がったら特別金を出そう〟と約束したらしい。

僕（茂之）：宮川一郎太

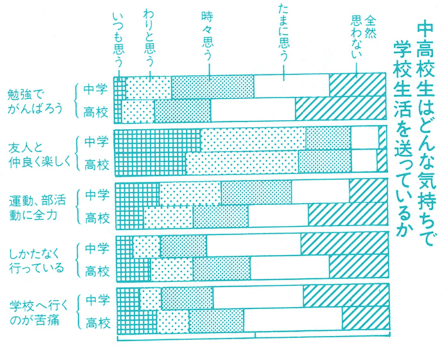
（みやがわ・いちろうた）
昭和41年3月25日東京生まれ。17歳。
身長172cm　体重55kg
趣味　映画鑑賞、球技が得意。
東京都内の高校3年生。



僕の今度の国語のテストは26点でビリから9番だった。テストは担任から成績の悪い順に返される。僕の番の時、例によって土屋のヤジる声がした。土屋とは、小学校の時からずっと一緒でお互い弱味を知り尽くしているからやりにくい。僕を女子更衣室へ閉じ込めようとしたり、ブスの浜本と無理矢理くっつけようとしたり、まるで僕をいじめるために学校へ来ているような奴なのだ。

中・高校生の生きがいは…

1982年6月6日付　朝日新聞より



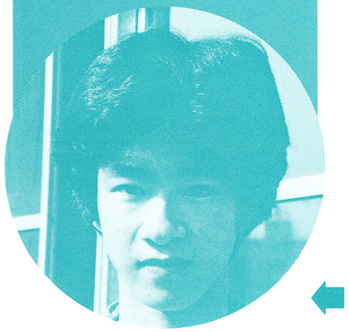
兄（慎一）：辻田順一

（つじた・じゅんいち）
昭和40年11月25日福岡生まれ。17歳。
身長166cm　体重50kg
趣味　読書、小説を書くこと。
東京都内の高校3年生

吉本のやり方はスパルタ式である。勉強する気がないのでノートに〝夕暮れ、夕暮れ…〟と意味をないことを延々書いていたら、鼻血が出る程ひっぱたかれた。学校からまっすぐ家に帰らず、本屋で立読みしていたら、強引に連れ戻されてしまった。土屋達から殴られて寝ている時でも容赦はしない。しかもノックダウンされた僕を見て〝ケンカの勝ち方を教えてやる〟と言い出した。僕はなんとなく吉本のペースに乗せられていきそう…。

土屋：土井浩一郎

（どい・こういちろう）
昭和41年8月14日東京生まれ。
16歳。身長180cm　体重61kg
趣味　スポーツ、
バレーボールが得意。
東京都内の高校2年生。



いや、僕だけではないようだ。なんだか近頃家族みんなの会話が乱数めいてきた。吉本の出現で家族の空気が変わりつつある。

成績が上がった。ざまあみろ。僕は勉強が嫌いだっただけでもともと頭はいいんだ。成績が上がると嫌がる奴がいるからおもしろい。その上、土屋とも一対一で対決し叩きのめしてやった。吉本にケンカの勝ち方を教えてもらった効果が現われたのだ。

いよいよ志望校を決める時がきた。ランクの低い神宮高校へ行く、という僕に両親も吉本も〝西武高校を受けろ〟と言う。変更届を最後まで出さないでいたら、なんと吉本が学校まで乗り込んで来た。担任とスッタモンダしたあげく、僕はとうとう西武高校を受けることになってしまう…。

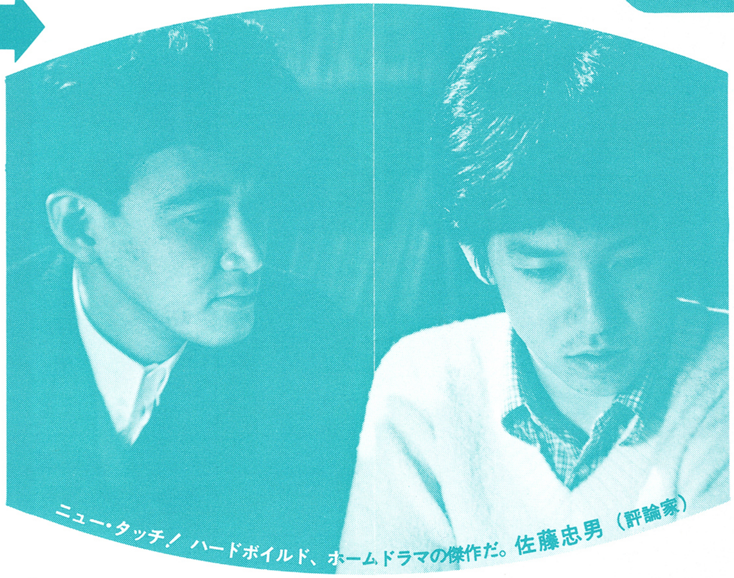
本音でぶつかる型破りの家庭教師、松田優作のさわやかさは、まさに教育界のE・Tだ。
土屋博映（国語学者）

春が来た。ささやかな僕の合格パーティが開かれた。その席上で吉本は、お祝いの料理の並んだテーブルをひっくり返し、豪快に去って行った。

〈生きがいの対象〉
ベストテン
①趣味に熱中する
②友だちと過ごす
③うまいものを食べる
④のんびり休憩する
⑤好きな異性と会う
⑥スポーツをする
⑦アルバイトで収入
⑧テレビ、ラジオ
⑨汗を流して働く
⑩家族と過ごす

そして、高校生としての僕の生活がスタートした。我が家には再び平穏が戻ってきたかのように見える。僕の家族の今度の テーマはいったい何なんだろう。

だけど僕は、なんだか眠くてしょうがない。外ではやけにうるさく、ヘリコプターの音が鳴り響いている…。



ニュー・タッチ！ハードボイルド、ホームドラマの傑作だ。佐藤忠男（評論家）

森田芳光

（もりた・よしみつ）
昭和25年1月25日
神奈川県茅ヶ崎生まれ。33歳。
8㎜映画「ライブイン茅ヶ崎」で
注目される。
「の・ようなもの」（'81・ヘラルド）
「シブがき隊・
ボーイズ＆ガールズ」（'82・東映）
「㊍噂のストリッパー」
（'82・にっかつ）
「ピンクカット
太く愛して　深く愛して」
（'83・にっかつ）
など話題作を連発中。

家族のきずなもゲームなら、受験がゲームであっても不思議ではない。それをこの映画は、面白く、悲しく見せる。山中恒（作家）